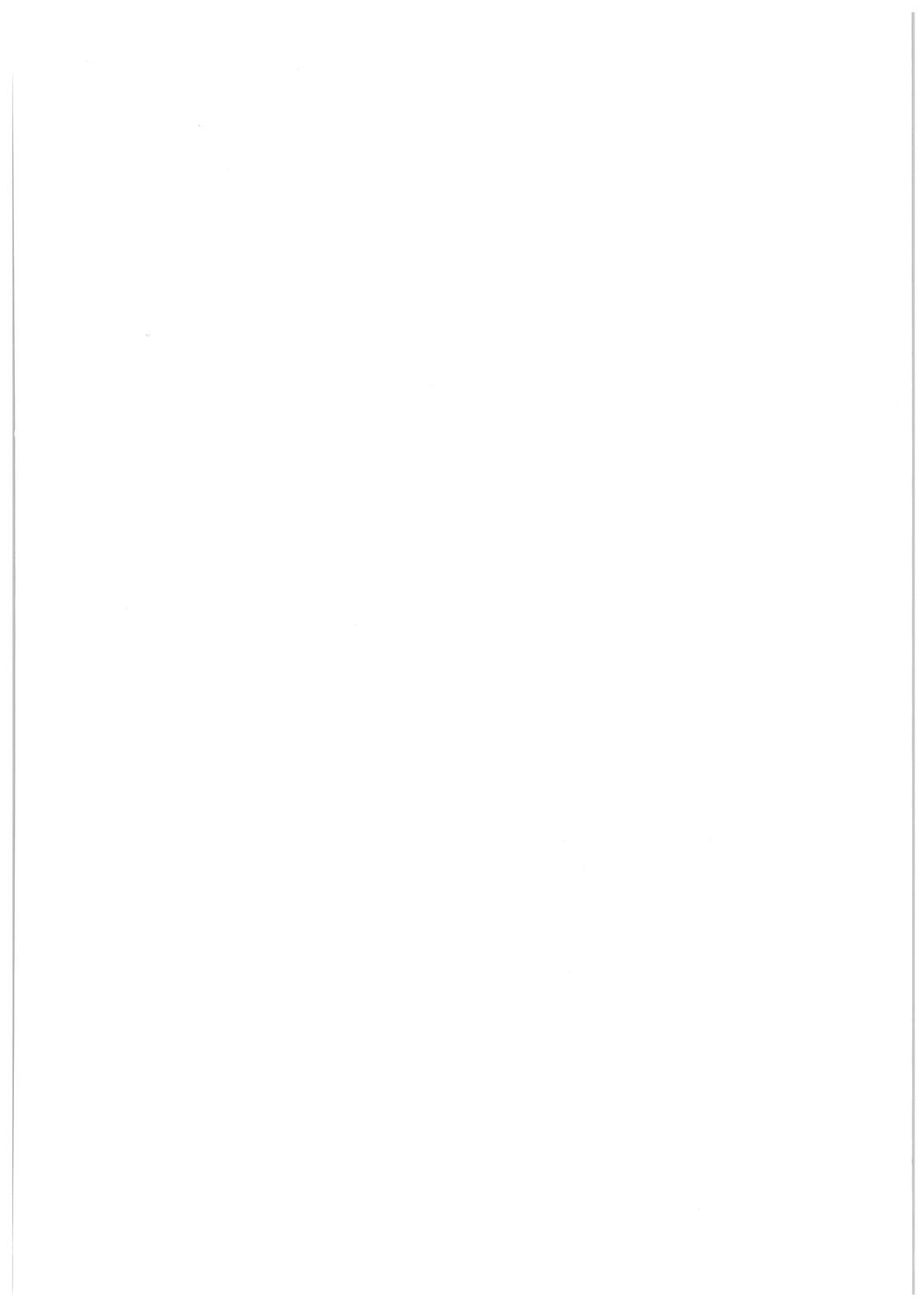


# 雜

## 編

一 信濃漫遊旅費寄附人名簿	569
二 保科塾寄附人名簿	569
三 各種標本壳上帳	569
四 五無齋葬儀諸事記	569
五 無齋保科百助香奠受納簿	570
六 五無齋善後策相談會誌	570
七 保科五無齋記念碑建設趣意書	570
八 故保科五無齋建碑事務報告	571
九 よいかゝをほしな百首け	571
十 保科五無齋君記念碑建設趣意書	573
十一 津金寺境内五無齋記念碑について	575
十二 五無齋五十年祭式典並遺墨遺品展出品目録	577
十三	578
十四	576
十五	575
十六	573
十七	571
十八	570
十九	570
二十	569
二十一	569
二十二	569



## 一 信濃漫遊旅費寄附人名簿

金五十円也 中沢 照琳

精算はして見されども百円許りニハなりたらん

鉱物岩石の標本の荷物は悉皆氏の受取り呉れられたり  
金二十五円也 今井猪之助

内金二円入る。其余破約

金二十円也 佐藤寅太郎

内金十円入る。其余破約

金二十円也 柴崎虎五郎

内金五円入る。其余破約

金三十円 木川寅次郎

全破約

金二十円 大沢茂十郎

皆済

金二十円 高橋 周助

全破約

金二十円 山田禎三郎

此外尚二百五十円許りフンダクリたり破約者多く且つ旅行の為  
め二ヶ年を費したるが為めなり。

金二十円 蔵 東城

(信濃教育会蔵)

## 二 保科塾寄附人名簿

明治三十六年十一月 私立 保科塾  
附寄附金使用法適要

一金三十円也 長野高等女学校教諭 土屋政吉氏  
明治三十六年十二月

内金 二十円也 四書二十五部買入

内金 八円四十錢也 近古史談三十部

教育学 a 氏と記せるものは土屋氏なり。

一金三円也 山口鶴治氏

明治三十七年一月

一金一円 平家物語読本四冊 一冊 二十五錢づく

教育家 b 氏と記したるは山口氏なり。

一金二円也 北安曇郡視学

明治三十七年一月二十七日 田中伍市氏

(信濃教育会蔵)

### 三 各種標本 売上帳 明治四十三年十二月

標本屋 五無齋 (花押)

#### 売上帳の序

抑 五無齋保科百助ハ北佐久郡横鳥村一農家の子ニ生れ商売向ニ  
ハ至つて慣れぬ方なり。是を以つて経済の才至つて少く帳面の如

きハ何時もつけ始めたるのみにて最後まで之を使用したるためし殆んど無し。之がため財政頗る悪しく粗衣粗食時に或は一二食を廃むるに至ること少からず。今茲明治四十三年十二月信濃公論を休刊して愈々標本屋専門となるに当り帳簿なくてハと之を大門町の光琳堂ニ求め愈以つて売上帳をつけ始むるものなり。例ニよつて例の如く半途にして又々厭やになるかは知らねども兎も角もやつて見んと思ふなり。覗るもの徒らに其勘定高くなりたりと譏る事なくんは幸甚也

明治四十三年十二月十三日夜

標本屋の五無斎

保科百助謹識  
（信濃教育会藏）

#### 四 五無斎葬儀諸事記

明治四十四年六月八日

通称保科百助 享年四十四才

明治四十四年五月二十五日に発病 三十一日長野赤十字病院ニ

入ル。病名 腦動脈栓塞

六月七日午前九時二十分歿

一 葬儀事務所 県町 鴻鶴館支店

一 通知（略）

一 通知文

五無斎保科百助病氣之所薬石無効七日午前九時二十分死去候間此段御通知候也

明治四十四年六月七日

実兄 保科丈之助

同母兄 保科 祐助

親戚総代 保科 勝次

友人 中沢 照琳

新聞広告

長野新聞 信濃毎日新聞 信越新聞

五無斎保科百助病氣之所薬石無効七日午前九時二十分死去候間

此段生前辱知諸君に謹告候也

追て葬儀は今八日午後四時長野市寛慶寺に於て執行仕候

明治四十四年六月八日

実兄 保科丈之助

同母兄 保科 祐助

親戚総代 保科 勝次

友人 総代 牛山 雪鞋

中沢 照琳

高松 良

八日午後四時 長野赤十字病院出棺 寛慶寺に於て仏葬

（信濃教育会藏）

#### 五 五無斎保科百助香奠受納簿

明治四十四年六月七日午前九時二十分歿

六月八日午後四時於長野市寛慶寺葬儀執行

一金二円也 大山綱正 一金一円也 小林良登

蓼科実業教育翼賛会

中等に依頼すべきこと。

三 右発起者には今夕集合の者及各郡視学中等学校長県郡會議員  
右常任委員 渡辺 敏

一金五十銭也 金井定吉 一金一円也 浅井冽

一金二十銭也 渡辺敏 一金五十銭也 小池久吾

一生花一对 宮沢春文 一金一円 高松良

一金一円 東松露香 一金一円 早川繁文

一金一円 河野次郎 一金二十銭 無名氏

筆墨硯類の処分

佐藤寅太郎 松下 金六 三村 安治

村松民治郎 牛山 雪鞋 東松 露香

宮沢 春文 神津利三郎 三村寿八郎

一金二円也 渡辺敏 一金二十銭也 清水龜之助

蓼科実業教育翼賛会

中等に依頼すべきこと。

三 右発起者には今夕集合の者及各郡視学中等学校長県郡會議員  
右常任委員 渡辺 敏

一金五十銭也 金井定吉 一金一円也 浅井冽

一金二十銭也 渡辺敏 一金五十銭也 小池久吾

一生花一对 宮沢春文 一金一円 高松良

一金一円 東松露香 一金一円 早川繁文

一金一円 河野次郎 一金二十銭 無名氏

筆墨硯類の処分

佐藤寅太郎 松下 金六 三村 安治

村松民治郎 牛山 雪鞋 東松 露香

宮沢 春文 神津利三郎 三村寿八郎

一金五十銭也 金井定吉 一金一円也 浅井冽

一金二十銭也 渡辺敏 一金五十銭也 小池久吾

一生花一对 宮沢春文 一金一円 高松良

一金一円 東松露香 一金一円 早川繁文

一金一円 河野次郎 一金二十銭 無名氏

筆墨硯類の処分

佐藤寅太郎 松下 金六 三村 安治

村松民治郎 牛山 雪鞋 東松 露香

宮沢 春文 神津利三郎 三村寿八郎

一金五十銭也 金井定吉 一金一円也 浅井冽

一金二十銭也 渡辺敏 一金五十銭也 小池久吾

一生花一对 宮沢春文 一金一円 高松良

一金一円 東松露香 一金一円 早川繁文

一金一円 河野次郎 一金二十銭 無名氏

筆墨硯類の処分

佐藤寅太郎 松下 金六 三村 安治

村松民治郎 牛山 雪鞋 東松 露香

宮沢 春文 神津利三郎 三村寿八郎

## 六 五無齋善後策相談会誌

明治四十四年六月八日（於卯之花楼上）

出席者（整理委員） 渡辺 敏 三村 安治 工藤

保科 勝次 渡辺 敏 三村 安治 工藤

伴野文太郎 三村寿八郎 神津利三郎

牛山 雪鞋 福島文助 東松 露香

八木 貞助 村松民治郎 丸山 尚

大沢茂十郎 高松 良 宮沢 春文

中沢 照琳 佐藤寅太郎 松下 金六

大沢辰治郎 矢沢米三郎 古川 文

一建碑（長野市に）

- 六 支出の節は整理委員の承認を経べきこと
- 整理委員（常任）（標本、筆墨硯）
- 八木 貞助 丸山 尚 高松 貞良
- 中沢 照琳 牛山 雪鞋
- 五無齋の伝記言行録編纂の件（建碑式事業と共に）

第二回委員会

六月十八日 卯之花二於テ

渡辺 敏

佐藤寅太郎

松下 金六

三村 安治

神津利三郎

工藤 文太

古川竹次郎

高松 良

中沢 照琳

建碑費

五百円(石材)

雜費

二百円

一 承認を経る件

四〇 南佐久

牛山 雪鞋

佐々木勝実

田中 文治

六〇 北佐久

臼田 松次

大塚徳太郎

田中 直治

与良熊太郎

吉村源太郎

田中 文治

掛川 良平

神津利三郎

田中 直治

五〇 小県

笠原 辰治

田中 直治

三井弥太郎

吉村源太郎

田中 直治

小林直治郎

吉村源太郎

田中 直治

本原村長

吉村源太郎

田中 直治

矢島

吉村源太郎

田中 直治

四〇 謙訪

吉村源太郎

田中 直治

渡辺監太郎

吉村源太郎

田中 直治

宮下 貞衛

吉村源太郎

田中 直治

五〇 上伊那

吉村源太郎

田中 直治

保崎 熊藏

瀬戸朝治郎

城取実治郎

米山太郎吉

深谷 久馬

五〇 下伊那

湯本 政治

古川竹治郎

高橋 貞吉

宮沢種太郎

福島文之助

中村七五郎

伊藤 徹郎

二〇 西筑摩

平田 義蔵

刈間徳治郎

細井 茂

五〇 東筑摩

三村 寿八郎

土橋長太郎

神戸 昌平

矢沢米三郎

有賀峰三郎

浜 利三郎

河野 齡藏

岡田 邦松

唐沢貞治郎

三五 南安曇

伴野文太郎

黒河内 健

矢ヶ崎栄次郎

三〇 北安曇

高山 健次

中村 国穂

鈴木 正治

岡野 直治

中村 美喜之助

三〇 塾科

秋野 太郎

三五 更級

丸山 尚

田中休治郎

西沢豊治郎

小林彦治郎

五五 上水内 六〇 長野

渡辺 佐藤 松下

高松 宮沢 東松

八木 酒井荒三郎 宮崎延次郎

青木一 鈴木 土屋

大沢 飯田牛阿弥 伝田

三松 栗岩

一五 下水内

清水 菊太 宮本 貞夫

丸山久保吉 島津春蔵

二五 上高井 伊藤 義治

城下 清一 宮川久三郎

二五 下高井 池田輪太郎

丸山久保吉 森 繁吉

東京 樋口勘治郎 伊藤 長七

小林徳治郎 藤森 良藏

県外 鳥取師 矢島嘉源次 沖繩師 森山辰之助

群馬師 下平 末藏 同 羽田 貞義

埼玉師 小島 政吉 同 北沢 真

埼玉県庁 石田 林藏 宮内省 春宮祐一郎

主催者より発起者へ依頼状を出す事

一 事務所及取扱者 長野市城山小学校内 中沢 照琳

一 集金期日 八月末迄

(信濃教育会蔵)

## 七 保科五無斎記念碑建設趣意書

保科五無斎君は奇人なりき信州に於ける常代の一大奇人なりき若し仮すに歳月を以てして五六十歳の寿命を保たしめたるには恐らくは信州に於ての奇人たるに止らざりしならん抑も君の奇なる所以のもの固より一ならざるもの能くし難きを能くし人の為し難きを為したるが如きも亦其の一たらずんばあらず。彼の櫛風沫雨鉄槌を手にして二ヶ年の歳月を高山大岳の跋渉に費して信州の地学を研究するに必要なあるあらゆる鉱石を蒐集し挙げて之を各校に寄附せしが如き身に億石の貯なく贏す所のもの愛読書千八百



長野市加茂神社の横にある五無斎の記念碑

卷ありしのみ又挙げて之を信濃教育会に寄与し更に奔走周遊して同図書館を創立したるが君の其の事を口にするや人皆虚誇の言として之を信ぜざりしも君が其の事を実現するに及びて人皆之に驚きたりき君能く酒を蒙り人を罵り世を嘗むるを常とせしが其の罵りは人世を土芥視して独り自ら高しとする底の罵りにはあらず人の歎を穿ち病に対する風諭の声に外ならず一点の邪氣を其の間に挾むものなし只其の虚偽を事とし虚威を弄するものに對しては口に筆に極力之を攻撃されたりき、君が後來に期せし所は信濃図書館を大成し信州大学を起すにありしものの如し、若じ仮すに歳月を以て五六十歳の寿命を保たしめたるには能く天下の奇人たるを得るを期し難からずとも其の志を実現するを得しやも知る可らざりしなり、君終生娶らず子孫を以て其の魂を吊ぶものなし是れ我輩同志相図り適宜の處に碑を建て以て其の靈を慰め且つ明治聖代信州に此の人ありしを記念せんとす希くは同感の諸君多少に係らず其の拳を翼賛せられよ

明治四十四年六月  
発起者（イロハ順）

飯田牛阿弥	池田 三松	大沢辰治郎	渡辺 敏
滝沢郁太郎	高松 良	土屋 良遵	東松 露香
中沢 照琳	村松民治郎	栗岩 水滸	八木 貞助
松下 金六	丸山弁三郎	伝田 芋村	赤沼満治郎
佐藤貞太郎	三村 安治	宮沢 春文	鈴木良之助
松本市			

岡田	邦松	唐沢貞治郎	河野 齋蔵	矢沢米三郎
南佐久郡	大塚徳太郎	佐々木勝実	北佐久郡	大塚茂十郎
三村寿八郎	大塚茂十郎	与良熊太郎	田中 文治	牛山 雪鞋
刈間徳治郎	吉村源太郎	神津利三郎	笠原 辰治	掛川 良平
東筑摩郡	矢島 盈	田中 直治	土屋 省三	白田 松治
下伊那郡	三井弥太郎	中沢 喜八	工藤 文太	八木与一郎
高橋 貞吉	岩垂今朝吉	藤沢 直枝	古坂 政吉	小林直次郎
湯本 政治	宮下 貞象	浜 孝吉	渡辺盛太郎	寺島伝右衛門
西筑摩郡	上伊那郡	米山太郎吉	深谷 久馬	城取寅治郎
刈間徳治郎	瀬戸歌治郎	中村七五郎	古川竹治郎	福島文之助
三村 伝	高橋 貞吉	宮沢鐘太郎	平田 象藏	

伊藤 徹郎 浜 利三郎 細井 茂 神戸 昌平

土橋長太郎 有賀峯三郎

南安曇郡

伴野文太郎 田中 吾市 黒河内 健 矢ヶ崎栄次郎

北安曇郡

岡野 直二 高山 健次 中村 国穂 鈴木 正治

埴科郡

中村美喜之助 山崎 邦治 秋野 太郎 宮入源之助

更級郡

宮下 研磨

西沢 豊治郎 田中休治郎 山口 勇雄 丸山 尚

松島賤太郎 小林彦治郎 宮本 邦基

上水内郡

風間 嘉蔵 長峰亥吉郎 小林初太郎 青木 虎一

荒木 茂平 酒井荒三郎 宮崎延次郎

下水内郡

宮本 貞夫 清水 菊太 島津 茂藏

上高井郡

金井富三郎 伊達 義治 宮川久三郎 城下 清一

下高井郡

池田輪太郎 丸山久保吉 小林徳治郎 森 繁吉

東京

伊藤 長七 藤森 良蔵 樋口勘治郎

(信濃教育会蔵)

浜 利三郎 有賀峯三郎

細井 茂 神戸 昌平

矢ヶ崎栄次郎

神戸 昌平

八 故保科五無斎建碑事務報告

(明治四十五年二月)

## 一 寄附金

七百十円 予定額

三百十七円五十五銭 現金収入額

外に神保博士外三氏より香奐として送られたる十一円は建碑

費に繰入るる筈

現金収入は右の如くなれども各郡市の大部より賛成追て送金の旨申来れり。

## 二 事業経過

十月二日夜 在長主唱者渡辺、佐藤、松下、東松、八木、高

松、中沢の九氏信濃教育会事務所に集合、左の事項を協議す。

(1) 旧借財につき急を要するものゝ処置（主任丸山尚氏に通報

依頼すべきこと、但し建碑寄附金は旧借財に流用せざること）

(2) 石材の選定（可成は自然石を得たきも先づ千歳町内田組につき調査すべきこと）

(3) 碑文の揮毫は渡辺国武子に依頼すべきこと（其後在京伊藤長七氏の手を経て依頼せし処快諾されし旨申来れり）

十月三日朝、渡辺、佐藤、三村安、三村寿、東松、八木、高松、中沢の八氏千歳町内田組に赴き仙台石等実見、先づ適當ならんと思ふもの二個を選び且設計費用等大体調査

(通常の設計にて約五百円を要すと)

十月中旬 渡辺氏芋井山中に石材を探りしも得ず。

十一月十二日 更級郡信里村に良石材ありとの事につき渡辺、高松の二氏石工二人を伴い出発検分せしが不合格、其帰途小田切村小鍋方面より裾花川沿岸を探り、発電所の上流約七八町の處に於て至極適当なる石材を発見せしも重要三千貫以上の見込なるを以て道路橋梁等の関係上運搬不能と認めたり。

十一月中旬 高松氏石工一人を伴い商業学校前畠中の大石及竜宮淵附近畠中の大石を検分し、尙裾花川の石材を見る。

十一月下旬 渡辺、高松、中沢の三氏石工一人を伴い上記の石材及郷路山の石材を検分せし処、商業学校前のもの及竜宮淵附近のものは多少望ありと認めたるを以て之を掘り出し其全形を確むる事とし、参考の為帰途善光寺境内及公園内の諸碑を視察す。

十二月上旬 渡辺外二氏前記掘り出したる石材を見たる処、商業学校前のものは台石として適當なるが如く、竜宮淵附近のものは全然不合格となれり。

一月二十三日 渡辺、高松、中沢の三氏石工二人を伴い当市午砲山中腹の石材を見たるも不合格につき尙諸方探りしが得る処なかりき。尙ムジナ郷路に良材ありとの事故近日中探検の筈。以上可成取急ぎ事業進行致度につき御賛成御送金の程奉懇願候主唱者

(信濃教育会蔵)

## 九 よいかゝを ほしな百首け

各新聞店よりの集金簿  
記

輕井沢 川村新聞店

一金三円七十五銭也 二〇 十七日申込

北佐久郡岩村田町文盛館新聞店 南佐久郡野沢町岩下轆轤吉

北佐久郡小諸町 塩川新聞店 北佐久郡小諸町朝日屋新聞店

北佐久郡望月町倉島新聞店 小県郡田中駅柳沢又七 小県郡大屋駅大屋新聞店

一金五四円六十二銭五厘也 三〇 十九日申込

小県郡丸子村赤沼喜四郎 小県郡上田町土田新聞店 小県郡上

田町本郷堂 塙科郡坂城町小宮山新聞店 塙科郡屋代駅宮坂新

聞店 塙科郡屋代駅新村新聞店

一金一円八十七銭五厘一毛 一〇 二十三日申込

更級郡篠の井駅鈴木新聞店 塙科郡松代町石川嘉助 上高井郡

綿内村堀内新聞店

一金五十六銭二厘五毛三部十八日申込

一部返り 上高井郡須坂町秀英堂 上高井郡小布施村轆轤軒

下高井郡中野町押鐘与助 下高井郡中野町三ツ井新聞店

一金一円八十七銭五厘一毛 十一月六日申込

下水内郡飯山町牧野新聞店 上水内郡柏原村古田新聞店

一金一円八十七銭五厘一毛 十月十五日申込

一金九十三銭七厘五毛 五 十月三十日申込

上水内郡豊野駅山岸新聞店 上水内郡吉田駅静好堂新聞店

上水内郡七二会村笛平新聞店 東筑摩郡麻績駅南光堂新聞店

東筑摩郡西条駅金沢新聞店 北安曇郡大町池田喜三郎 南安曇  
郡豊科村萩野新聞店

一金九十三銭七厘五毛 五十九日申込

十三日受領東筑摩郡松本町 松林堂新聞店東筑摩郡村井駅 千

野万五郎 東筑摩郡塩尻駅上条東一郎 東筑摩郡洗馬駅岩垂新

聞店

一金二円八十一銭三厘五毛 一五 十二月十二日申込 一円八十銭

入り 西筑摩郡福島町福島新聞店 上伊那郡平出町有賀治三郎

上伊那郡松島町松島新聞店 上伊那郡高遠町伊那新聞店 上伊

那郡赤穂村生田大助 下伊那郡飯田町金鶴堂新聞店 上諏訪町

協同新聞店 下諏訪町三村正男 諏訪郡平野村 浜新聞店

一金三十銭七厘七一 二十一日申込

諏訪郡中洲村協同新聞店中洲出張所 諏訪郡永明村西沢荒治

諏訪郡富士見村畠野新聞店

(池田可一氏蔵)

我死なば佐久の山部へ送るべし  
燒てなりとも生でなりとも

の意を酌み地を山部津金寺境内にトし一紀念碑を建立し併せて法要を営み以て君が英靈を弔はんと欲す請う君が生涯唯り教育の為めに狂奪して遂に娶らず其の靈を祭るの子孫なきを思はれ淳厚なる同情を以て生等が此の挙を賛せられんことを

明治四十四年九月

発起者(イロハ順)

横鳥村 今井猪之助 今井今朝藏 保科元左エ門  
保科寿万次郎 保利三八 保科勝次 川瀬由太郎  
吉村源太郎 吉村権助 吉村由平 高橋忠孝

## 十 保科五無斎君記念碑建設趣意書

信州の奇人として許されたる五無斎君は四十四歳を一期として

本年六月七日溢遂に逝けり而して此の短生涯中の言動は奇矯中常確乎として一貫せる主義を有せり即ち信州の教育をして向上發展せしむるを以て自ら任じたるもの如し君が就職十ヶ年間の事業は異常ならざりしと雖も而も武石蓼科両校に於ける短日月間に

て或る感化を遺されたるは事実なり一旦教職を辞するや直ちに「ハッピを」被り鉄鎌を提げ地学研究の資料たる信州の岩石鉱物の採集に前後四ヶ年を費し挙げて県下の学校に寄附し其後長野市に於て奇抜なる私熟を開きて育英に尽し傍ら信濃図書館設立に尽粋し或は筆墨行商に托して県下漫遊の途に上り現時教育の弊を論じ之が救済改良を絶叫し信濃公論を発刊して侃々諤々以つて大に社会を警醒する所ありたるが如し若し君に仮すに寿を以てせば彼の宿志たる桔梗ヶ原信州大学設立の如き其事業の大成功盡疑うなかるべし然り而して天の無情なる中道にして此奇人を奪ふ噫惜しい哉之れを以て県下の知己友人相謀り碑を長野市に建て靈を慰むるの企あり茲に於て君が生地にして且つ最後の奉職地たる横鳥芦田三都和の郷党友人並に君が最も永く就職したる武石村の知己及門下生相謀り君が遺志

門下生相謀り君が遺志

十一 津金寺境内五無斎記念碑

## 建碑について

扉に掲げられてある津金寺の記念碑は表面は、「五無齋保科百助君碑」渡辺敏書とあり、本文にも屡々出てくるように渡辺先生とのお二人の間柄は一心同体ともいふべきで互に信じ合つておられたまことの知己であつた。碑の右側面は「明治四十五年五月五日建之」と記され、五無齋逝去の翌年に建てられておりことは意義の深いことである。左側面には「我死な盤佐久の山部へ送る遍し焼いてなりとも奈ま伝なりと茂」「ゆつくりと葬姿に暮してさておいで己しは一足鳥渡お先へ」吉村源太郎筆となつてゐる。煙嶺吉村源太郎氏は俳句を佳くし五無齋とは万事全くの盟友であつた。裏面は「特別贊助員イロハ順として、小県郡武石村池内寛治、今川宇一郎、豊田司、金井祐次郎、金子惣一郎、金子良人、滝沢伝、高橋信美、柳沢雅休、松代儀八、小宮山好三郎、島田環、柳沢武、丸子村中原太郎、殿城村柴崎虎五郎、上田町土屋窓外、岩村田町森泉三代田、小諸町与良守三郎、本牧村武重、重祐、武重徳八郎、大沢茂十郎、芦田村今井栄治、岩下政三、笠原辰治、土屋省三、柳沢清太郎、山浦謙三、山木愛重、篠井俊綏、三都和村市川源三、宮坂頼母、市川与八郎、市川市郎、林国藏、佐藤蓼山、宮沢善助、横島村山部区青年会、横島青年会、川瀬由太郎、今井猪之助、今井種次、西沢喜一郎、遠山五郎、遠

山喜太夫 高橋隼 高橋清四郎 田中伝重 山浦佐兵衛 小林久

左衛門 小淵祐太 寺島荒恵 在メキシコ寺島勝兵衛 手塚吉之

助 佐久間源次郎 佐藤穂積 塩沢巖 関松太郎 関茂作 関五

郎 関与七 保科藤藏 高橋房之助

主唱者として 池田長田 浦里村生嶋国作 今井伝蔵 吉村源

太郎 吉村権助 高橋忠孝 難波宗十 浦野元一 武石村伏見寛

柔 小池藤兵衛 小林保助 関儀助 保科勝次 保科三八 保科

元左衛門 保科寿満次郎

となつており特別賛助員六八名主唱者一六名である。特別贊助員の外に普通の贊助員のあつたことはうかがい知るところであるが歿後一年足らずで丈余のこの一大石碑が建立されていることは注目すべき事実である。

建碑の資金額工事の模様等に関する記録は今のところ見当つてないが、蓼山浅岳の眺めはこの山部地方において粋然としており、人情また濃かな上に進取の気のみなぎるところ、この卓立した偉大人に対するの里人の思慕が建碑となつて実現されていることは故なきことではない。

## 十二 五無斎五十年祭式典並遺墨遺品展出 品目録

五無斎五十年祭式典は五無斎の五十年忌に当たる昭和三十六年十一月十八日に北佐久教育会主催信濃教育会及び立科町後援のも

とに出生地立科町で行われた。



五無斎五十年祭遺墨展の一部

先づ慰靈法要は菩提寺である名刹天台宗津金寺の五無斎記念碑の前で池田長田大僧正によつて執り行われ、会するもの他郡市の代表者及び会員町民百数十名。次に立科西小学校で顕彰記念式ならびに座談会が催され、座談会は五無斎と関係の深い荒木茂平氏

三石勝五郎氏、片桐銀治氏、吉村綠蔭氏、山浦良平氏等を中心にして約二時間にわたつて感銘深くすすめられた。これと同時に遺墨展覧会が開かれ、二つの教室に約百五十点が陳列され終日にぎやかな参觀者で在りし日を偲んだ。当日の主な出品目録は次のようなものであつた。

三

住所	出品者名	遺品名	一本数
真田町	青木宗四郎	軸（教え子が記念のために植えられた松をよめる）	
立科町	横沢	手紙（横沢治郎兵衛殿宛）	
同	上野鬼田雄	写真（本原小学校時代の先生）	
同	高橋	朱塗木杯（地学標本寄附による）	
同	美德	短冊（五無斎墜落記念のうた）	
保科	健	よいかかをほしな百首け	
蒲団地	紬の細片	手紙（実兄丈之助殿宛）	
機業日誌	織物講習証書（大豆島時代）	短冊（遊廓十首 その八）	
蒲団地（家紋を織り込む）			

筆壳日誌（第三卷）

人間保科五無斎（荒木茂平著）

鉱物標本

内外國繪物標本

知丹(國一為此屋他)

四庫全書

代議士立候補云告（言毎）

信濃公論（六号）～（八十二号）

保科五無齋特集号（信濃教育）

長野師範卒業記念

短冊(題しらす)

三編（洪武一貞廟文）

保叔五無齋詩集序（言農教育）

手紙（吉村煙嶺殿宛）

記念六枚屏風

先生の写真

短冊

アリ島村謡（思い出の先生）

和平無事ノ根薩六郎著

（我国で名物男…）

地質誌  
(講演筆記)

(荒木先生宅には別

手紙（興土屋良遵君書）

三  
一枚 冊本冊冊冊枚枚双 枚冊箱枚枚枚冊揃枚枚箱枚箱冊冊

おもちや用標本購入者芳名録	一冊
五無齋前後策相談誌	一冊
漫發生須序標本壳上帖	一冊
五無齋先生香奐受納簿	一冊
保科五無齋記念碑建設趣意書	一冊
各種標本壳上帖	一冊
信濃漫遊旅費寄附人名簿	一冊
絵葉書(漫遊姿の先生他)	一冊
信濃産岩石鉱物標本説明書	一冊
歌集原稿	一冊
「我死なば佐久の山部」他	一冊
長野市	一冊
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	一冊

(昭和三十六年十二月二十日北佐久教育会報五無齋記念特輯号より転載)

